

施策	7104 市民参画の充実						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	パブリックコメントの実施、地域市政懇談会の開催等を図る。						
成果指標	まちづくり懇談会出席者数...5年間（平成25年度～平成29年度）で1,150人（現状値 1,050人）						
目標達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [人]	予定	920.00	1,100.00	1,110.00	1,130.00	1,150.00
		実績	957.00	1,131.00	1,356.00	1,460.00	1,451.00
	成果指標2 [ ]	予定					
		実績					
	成果指標3 [ ]	単位コスト					
		予定					
	成果指標4 [ ]	実績					
		単位コスト					
	トータルコスト (千円)	予定	552,053	679,454	586,267	661,380	466,587
実績		523,145	616,611	528,628	631,451	977,466	
内部評価	貢献度	まちづくり懇談会の出席者を増やし、市民の市政への参画を促すことは、上位施策の「住民参加の満足度」の向上に大きく貢献している。					
	達成状況	女性の参加者が少ないとの意見を受け、子育て世代対象の市長との懇談会を実施した（6/24、12/2）。まちづくり懇談会での意見の経過対応報告書の作成公表をした。					
	課題	まちづくり懇談会開催の周知を様々な媒体を活用し数多く行い、出席者の増加を図るほか内容やテーマなども検討する事が必要であると思料する。					
	取組方針	まちづくり懇談会実施後に行うアンケート調査を基に、内容の検討を行うことで、より市民の関心に沿った内容となるように検討する。また、各種媒体により参加を呼び掛ける。					
外部評価	<p>まちづくり懇談会であるが、最近では、司会進行を職員が行っているが、出席数や地域課題といった点から、以前のように地域の方が司会進行を行っても良いと考える。また、平日の夜の開催では、女性の参加は見込めないと思われるので、最近行っている子育て世代のふれあいトークをいろいろな世代別で行ってみるのも良いと思う。</p> <p>地域課題や地域ニーズの把握といった点からは、職員に市民記者や地域担当を設置することも必要であると思われる。</p>						
単位施策達成のための事務事業	事業コード	名称				トータルコスト(千円)	達成度
	670301	市政功労者表彰等事業費				2,557	100
	673201	広聴事業費				8,754	100
	670601	選挙管理委員会運営費				6,384	1
	670701	選挙啓発費				4,107	1
	670801	市長及び市議会議員選挙費				9,540	1
	671401	衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査費				73,056	1
	679101	議員人件費				235,159	1
	679201	議会運営費				101,489	1
	681601	土地改良区総代選挙費（栃木）				2,548	1
719001	市議会議員共済会負担金				533,872	1	



# 平成29年度 単位・基本 施策評価表 補表

施策	7104 市民参画の充実		
区分	妥当性	妥当	市民の市政への参画手段として妥当である。
	コスト削減の余地	有	広く市政への参画を呼び掛けていくことが必要であり、コストの削減余地はないと考える。
	受益者負担	適正	市政への参画について、受益者負担を求めるものではない。
	上位貢献度	有効	まちづくり懇談会は市民と行政の協働について有効である。
	類似事業の有無	無	市政に対する意見等を執行部と直接やり取りする事業は他ではやっていない。
	成果向上の余地	有	まちづくり懇談会の出席者は年代別のかたよりがあるので、各年代別の開催を検討する必要がある。
内部評価 【H29年度分】	貢献度	住民参加の満足度の向上にあたり、まちづくり懇談会の出席者が増えることで、市民の市政への参画を促すことができるため、その貢献度は大きい。	
	達成状況	まちづくり懇談会の出席者については、目標は達成している。また、子育て世代と市長が意見交換をする子育て世代ふれあいトークを2回開催した。	
	課題	まちづくり懇談会の出席者については、年代別等に偏りがあり若者や女性など広い世代にわたって参加できる仕組みを構築する必要がある。	
	取組方針	より多くの市民の方がまちづくり懇談会に参加してもらうために、実施後にアンケート調査を行い、開催日数や時間、場所について再検討するほか、各種媒体により参加を呼びかける。引き続き、広い世代が参加できる仕組みを構築するよう努める。	
内部評価 【前期5年分】	貢献度	住民参加の満足度の向上にあたり、まちづくり懇談会の出席者が増えることで、市民の市政への参画を促すことができるため、その貢献度は大きい。	
	達成状況	アンケート等により、参加しやすいまちづくり懇談会の開催に努めた結果、出席者は目標を上回った。広い世代に参画していただくため、高校生夢トークや子育て世代ふれあいトークなどの若者を中心としたふれあいトークを開催した。	
	課題	まちづくり懇談会の出席者は年代別に偏りがあるため、若者や女性など広い世代にわたって参加できる仕組みを構築する必要がある。	
	取組方針	より多くの市民の方がまちづくり懇談会に参加してもらうために、実施後にアンケート調査を行い、開催日数や時間、場所について再検討するほか、各種媒体により参加を呼びかける。引き続き、広い世代が参加できる仕組みを構築するよう努める。	